

死亡事故追及し外注化撤回を要求

幕張車両センター労災めぐり首都圏本部と団交

動労千葉は8月30日、幕張車両センター労災死亡事故について首都圏本部と団体交渉を行った。JRは「第三者委託承認」で多重下請けを容認してきたことを認めた。こうした外注化の結果として死亡事故が起きたのはJRの責任であり、外注化をただちに撤回すべきだ。以下は団体交渉の内容を要約したものです。

会社

グループ会社と一体で効率的な業務執行体制を構築してきた。だが事故は命に関わる重大事であり、深刻に受け止めて再発防止を検討する。

組合

事故から2か月経っても「原因不明」としているのは不誠実だ。他でも死亡災害は発生しており、熱中症の疑いがあるのではないか。徹底調査と公表が必要だ。

会社

因果関係はまだ不明だ。小山新幹線車両センターでも6月に死亡事故があり、熱中症の疑いはあるが詳細は言えない。

組合

事故当日の対応も杜撰^{ずさん}だった。倒れた労働者に付き添わず、休憩所に移動したことは鉄則違反だ。

会社

作業責任者は異変に気づき探してお

り、大きな問題はなかったと考える。しかし再発防止は検討する。

組合

当日はスキマバイトの労働者が作業に入っていた。構内は危険を伴う現場であり、安易な外注は極めて危険だ。CTSが道具や教育を担い、秩父商会は人員を揃えるだけで偽装請負に近い。

会社

CTSから先の委託は把握していなかった。道具や教育の所在は契約上の問題だ。

組合

初めて来た人が熱中症で亡くなったのは無責任な外注化の結果だ。外板清掃の委託は急増しており、秩父商会への第三者委託をJRが承認したこと自体が問題だ。秩父商会は独自で要員確保もできていない。

会社

CTSの要請で業務量を増やし、秩父商会には京葉での実績があるとして承認した。ただしさらに下請けした事実把握していなかった。

組合

死亡事故が外注先で繰り返されている。外注化そのものを再検証し、JRが全面的に責任を持つ直営体制に戻すべきだ。